

謹啓

薫風の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度の東日本大震災に際しまして、貴会の募金活動によって集められた過大な義援金を本校ヨット部にお送りくださいまして、誠にありがとうございます。頂戴したご厚意ですが、大切にヨット部の活動資金として使わせていただきたいと思っております。

本校は明治三十四年気仙沼町立水産補習学校として創立し、今年度で百十一年目を迎え、情報海洋科、産業経済科、機械技術科の一年学年三学科からなる県立の専門高校ですが、一昨年三月の東日本大震災による津波によって、校舎をはじめとする全ての施設を流失しました。ヨット部も十五艇すべてが流されてしまいました。

震災から二か月後の五月より近隣の三つの高校の協力を得て教室を借りて授業を再開し、その半年後の十一月からは、近隣の高校のグラウンドに建てた仮設校舎に移転して、約八か月ぶりに全校生徒そろって学校生活を開始しました。

昨年度は、専門高校でありながら各学科の実習棟や体育館がない状態でスタートし、実習や実験等の設備備品もままならない状況でした。その後震災から二年が過ぎた今年三月、仮設の実習棟三棟と体育館一棟が完成し、今年度からはいよいよ専門教科の各実習や実験、体育の授業や部活動の一部が自校の施設で実施できることとなり、多少の不自由さから解放されることとなりました。ただ、部活動に関しては仮設体育館では狭く、校庭も狭いため校外の六か所の学校や施設等を借用して活動している状況であり、ヨット部もかつての活動場所での活動をしているものの、岸壁の復旧工事はほとんど行なわれていない状況となっています。

今年度は新入生百二十三名が入学し全校生徒三百六十九名で元気に学校生活を送っており、過日行なわれた宮城県高校総合体育大会ヨット競技では、FJ級デュエットで一位、同級ソロで二位となり東北大会への出場権を得たところであります。

本来ならば拝趨のうえ御礼申し上げます。ごさいますが、書面をもちまして御礼の言葉とさせていただきます。

末筆ながら貴会の益々のご発展と、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

謹白

平成二十五年六月吉日

宮城県気仙沼向洋高等学校

校長 瀬戸 巳治雄



日本セーリング連盟加盟団体外洋東京湾
会長 福田 義一殿



「感謝の気持ち込め」

気仙沼向洋 ヨットで優勝



デュエットを制した気仙沼向洋

気仙沼向洋から佐藤 勝・小野寺・佐藤組も
 充師・加藤文也組、小 5位に入り、2艇総合
 野寺翔・佐藤大組(い のデュエットで優勝し
 ずれも2年)がデュ エットで優勝。東北大
 会(14日から青森県む つ市)への出場を決め
 た。

東日本大震災の大津 波で片浜漁港の艇庫が
 流失した同校。震災後
 に新調した船を使い、
 尾崎漁港で練習に励む
 が、震災前に比べて練
 習時間は大きく削られ
 ている。

大きなハンディを乗
 り越え、昨秋の新人戦
 (男子FJ級ソロ)1
 位、2位独占に続く好
 成績。4人は「震災後
 に励ましていただい
 た、皆さんへの感謝の
 気持ちを込め、全力で
 レースに臨んだ。結果
 が出せてうれしい」と
 口をそろえた。

佐藤・加藤組は5
 レースのうち第1、第
 2レースで1着となる
 などしてソロで準優